

# 総合的探究の時間における一枚ポートフォリオを用いた振り返り ～資質・能力に着目して～

佼成学園中学校・高等学校 北野 尚之

## 実践背景

本校、グローバルコースでは総合的探究の時間においてアントレプレナーシップの授業を実施している。毎回の授業後に振り返りシート(図1)を記入し、ロイロノートで回収をし、学期末の資質能力を含めた総括的な振り返り際にはそれらを見直しなが

ら振り返りを記述している。しかしながら各授業後の振り返りが学期末の総括的な振り返りに反映されず、そのため資質能力についての振り返り記述が量、質とも低い。

資質能力についての振り返りには自身の取り組み(事実)をもとに強みや弱みについて俯瞰的に考えるメタ認知が必要になる。毎回の振り返りを蓄積することと、蓄積された振り返りを見直してメタ認知を促す手立てが必要だと考えられる。

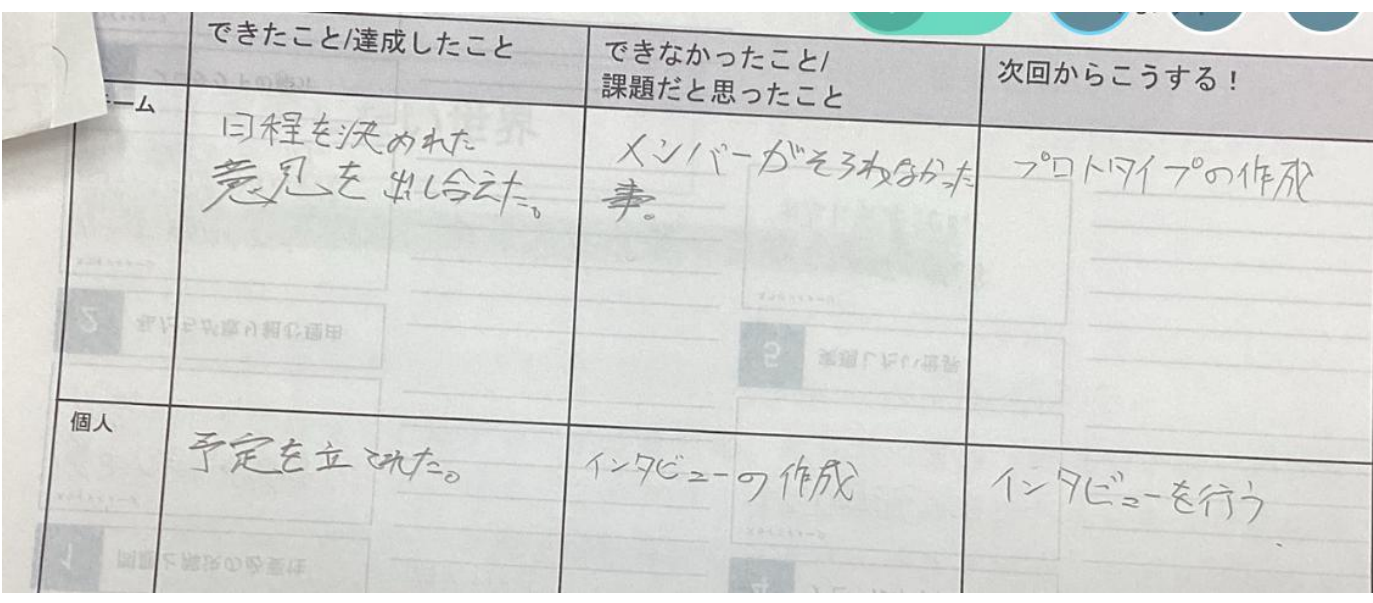


図1:振り返りシート

## 実践方法

対象: 高校 1 年C 組 26 名、D 組 26 名

期間: 2024 年 10 月～12 月

毎回総合的探究の授業後にC組は一枚ポートフォリオ(図2)を用いた振り返り、D組は従来の振り返りを行う。その後学期末の総括的な振り返りシート(図3)を用いた振り返りを行う。なおC組、D組は高校入試時の学力が均等になるようにクラス分けされている。

学期末の振り返りシートはルーブリック(図4)によって点数化し、量的に分析する。また、特に資質・能力の記述(図5)について点数の高かった生徒をピックアップして記述内容を質的に分析する。

アントレ 振り返りシート

持ち帰り履歴 組 期 氏名

チームの目標

11/6

	できたこと	できなかったこと	次からこうする
個人として			
チームとして			

11/27

	できたこと	できなかったこと	次からこうする
個人として			
チームとして			

図2: 一枚ポートフォリオ

<2学期を振り返って>

できたこと(個人として)

できなかったこと(個人として)

できたこと(チームとして)

できなかったこと(チームとして)

当てはまるものに○をつけ、理由を書いてください。(資質・能力)

①a proactive learner ②an effective collaborator ③an open communicator  
④a critical thinker ⑤globally minded ⑥open minded

アントレを通じて、あなたは何がわかった? 何か変わった? (自己の理解や資質・能力の変容)

図3: 総括的な振り返りシート

当てはまるものに○をつけ、理由を書いてください。(資質・能力)

①a proactive learner ②an effective collaborator ③an open communicator  
④a critical thinker ⑤globally minded ⑥open minded

アントレを通じて、あなたは何がわかった? 何か変わった? (自己の理解や資質・能力の変容)

図4: ルーブリック

図5: 資質・能力の記述

観点	ショーケースポートフォリオ評価基準		
	A(期待以上)	B(合格ライン)	C(不十分)
全体を通じた振り返りに関する(内容)	プロジェクトを通して、各授業でできたこと、できなかったこと(事実)がわかる。また事実について因果関係や強み、弱みなどの分析が見られる。	プロジェクトを通して、各授業でできたこと、できなかったこと(事実)がわかる。	プロジェクトを通して、各授業でできたこと、できなかったこと(事実)がわからない。
プロジェクトへの関わりと、6つの生徒像について(資質・能力)	自分自身がどのようにプロジェクトに関わったか(事実)をもとに、自身の強みや弱み(資質・能力)について客観的にとらえる(気づき＝メタ認知)記述がみられる。また、プロジェクトに取り組む中で資質や能力がどのように養われたかがわかる。	自分自身がどのようにプロジェクトに関わったか(事実)をもとに、自身の強みや弱み(資質・能力)について客観的にとらえる(気づき＝メタ認知)ことができている。	自分自身がどのようにプロジェクトに関わったか(事実)に関する記述にとどまっており、自身の強みや弱み(資質・能力)についての記述が不十分である。

## 結果

量的分析

- ・C組、D組の有意な差異は見られなかった。
- ・C組、D組ともに事実についての記述(項目1～4)は数値が高いが資質・技能についての記述(項目5)は数値が低かった。

項目1: できたこと(個人として)	組	項目1	項目2	項目3	項目4	項目5
項目2: できなかったこと(個人として)	C組	2	1.913043	1.782609	1.826087	1.173913
項目3: できたこと(チームとして)	D組	2	2.04	2.04	2	1.36
項目4: できなかったこと(チームとして)						
項目5: アントレを通じてあなたは何が分かった? 何か変わった? (自己の理解や資質・能力の変容)						

表1: 質問項目

表2: 結果

質的分析

できたこと(チームとして)

難しい問題(比較)が起きて皆で集まり、解決案を出し合った事ができた事だと思いました。役割分担をして効率的にできた事とできた事だと思いました。今後もできた事を続けようと思いました。

できなかったこと(チームとして)

自分が集める事ができなかった。たのが原因で色々な事に遅れをとってしまい、最終的に一人に負担を押し付けちゃったのが良くないなと思いました。その負担は一人で抱えようと、前から自分だけやる様な状況になってしまったのでその辺を改善しようと思いました。

当てはまるものに○をつけ、理由を書いてください。(資質・能力)

①a proactive learner ②an effective collaborator ③an open communicator  
④a critical thinker ⑤globally minded ⑥open minded

アントレを通じて、あなたは何がわかった? 何か変わった? (自己の理解や資質・能力の変容)

アントレを通じて、他人の気持ちを考える事が以前より分かる様になりました。自分が将来何をしたのかなどを理解できました。

変わった事といえば、チームをまとめる方法や、モチベーションの維持の方法が変わりました。

今年は個人としてできなかった事を克服しようと思いました。

事実についての記述で具体性が高く、因果関係についても言及できている生徒でも自己の理解や資質・能力の変容についての記述では具体性が低い。

## 考察と今後の課題

一枚ポートフォリオが有意差を生まなかったのは検証期間が短かったことも要因だと考えられる。期間を長くして調査することが望ましい。

資質・能力の振り返りについては事実についての振り返りに比べると数値が低いことからメタ認知が促されておらず、自己の理解や資質・能力の変化について理解が深まっていないことがわかる。これは資質・技能の振り返りについて現状の振り返りの方法が十分ではないことを示している。

今後は1枚ポートフォリオに資質・能力の項目を追加し、毎回の授業の時点で資質・能力についての振り返りを行い、自身の変容を見て取れるよう工夫するなどの改良をしていく予定である。また、教師の評価やほかのチームメンバーとの相互評価によってメタ認知を促すことも有効だと考えられる。毎回の振り返りについて教師評価や相互評価を行うのは負担が大きく実施は難しいが、学期末の総括的な振り返りの際に実施することは可能だと考えられる。